



原水爆禁止 2019年世界大会 in 長崎に 建交労神奈川県本部から代表2名参加

原水爆禁止 2019年世界大会 in 長崎大会に神奈川県本部を代表して神奈川県南支部の清野副委員長（県本部執行委員）が高橋県本部書記長とともに参加をされました。以下は県南支部の清野副委員長からの報告です。

8月7日15時30分から長崎市民会館にて、原水爆禁止 2019年世界大会が開催され、被爆者からの挨拶や各国政府代表者などからの発言を聴きました。一番印象的だったのは沖縄のたたかいに連帯を呼びかけた前名護市長の稲嶺進さんによる「辺野古基地建設反対の運動は前進している。我々は絶対に負けない。」との力強い発言でした。開会式全体の参加者は主催者発表で4000人でした。



参加者で埋め尽くされた世界大会開会式会場

世界大会に併せた長崎県本部独自の取組み

建交労長崎県本部は、長崎県本部の先輩が建立した墓前「敬朋（けいほう）」で原水爆禁止世界大会に併せて毎年8月8日の朝に墓前供養を行っています。神奈川県本部の私たち2人も朝9時から行われた供養に参加しました。

「敬朋」は1975年3月に全日自労（建交労の前身）が被爆者の会を結成し「亡くなられた引き取り手のない組合員の墓を作ってやりたい。そのために墓地を提供して欲しい」と長崎市に要求書を出し交渉しました。



「敬朋」墓前に集合した25名の参加者

2年間に渡って交渉を続けた結果、墓地の提供を受け1977年8月31日に墓碑を建立することができました。「敬朋」の墓碑銘は、当時の長崎市長であった諸谷義武が記されました。この行動の参加者は25名でした。



中里長崎県本部委員長の挨拶

また、この「敬朋」墓前に毎年参加されている日本宗教者平和協会（宗平協）の森事務局長（浄土真宗大谷派）と建交労大分県本部の林副委員長（浄土真宗大谷派の安養寺住職）が今年も参加をして供養をされました。

全国の建交労の仲間 28 名 が参加した長崎交流会



宗平協の森、林さんと供養する参加者

「敬朋」墓前供養のあとは原水爆禁止世界大会主催者等が準備した「特別集会」「フォーラム」「各種分科会」「佐世保基地調査行動」「被爆遺構碑めぐり」などに、参加者それぞれが思いおもいの活動に終日参加しました。

そして夕方からは全国から原水爆禁止世界大会に参加している建交労のなかまが長崎県本部と中央本部が主催する交流会に参加をして学習と交流を深めました。



全国から原水禁大会に参加した建交労の仲間

長崎県本部が学習教材として準備されていたのは長崎県佐世保市内にある米軍基地の軍艦などの映像で、その危険な実態について学ぶことができました。つづいて参加者が原水爆禁止世界大会に参加しての感想などについて発言・交流し、参加することの大切さを共有することができました。

学びのあとは、いつものようにお酒や料理を美味しく味わいながら楽しく交流を深めました。交流会全体の参加者は28名でした。

来年は被爆 75 年の節目・是非とも積極的な参加を

原水禁世界大会の閉会式には約 5000 人が参加し、被爆者の体験を聞き、地元の高校生からは「毎週日曜に長崎駅前ヒバクシャ国際署名に取り組み「今日までに 20 万筆の署名を集めた。これからも私たちのスローガン『微力だけど無力じゃない』を掲げこの取り組みを世界に広げていきたい」と力強い発言がありました。

政党からの挨拶では日本共産党の小池晃書記局長が「先程行われた記念式典で、長崎市長が国連の核兵器禁止条約に署名をするよう安倍総理に求めたが、安倍さんは核兵器の「かの字」も言葉に



長崎市の平和祈念像

しなかった。世界で唯一の戦争被爆国の首相はなにを考えているんだ。安倍さんは日本の首相ではないのか」と発言すると会場から大きな拍手があがりました。わたしは昨年の広島大会に続きこの長崎大会参加しました。参加するほど感動や衝撃を様々なところで感じ、受けることができます。核兵器禁止条約批准国は 25 カ国となりました。この批准国のなかに被爆国の日本が入っていないのは本当に恥ずべきことです。来年は NTP 再検討会議と原水爆禁止 2020 年世界大会がニューヨークであります。さらに来年は被爆 75 年の節目の年ということでもあります。神奈川県本部の仲間には、是非ともこの行動への積極的な参加をして頂きたいです。（清野）